図書館友の会だより
みみずくの森
第７号

2022年10月
七尾市立図書館
友の会発行
発行責任者
芹田玲子

藤平さんと「うたの旅」へ

本を読む仲間の集い 10月22日に

石川県観光スペシャルガイドなど多方面にご活躍の藤平朝雄さんを招き、図書館と友の会では十月二十二日（土）午後一時半から矢田郷地区コミュニティセンターで「本を読む仲間の集い・講演会」を開きます。

演題は「半島と旅情文学―七尾湾岸うたの旅」です。

旅はまず川端康成「伊豆の踊子」から。ここは若い藤平さんが生活体験した半島のひとつです。つづいて太宰治「津軽」へ、家持の「能登」へとひた走り、終着駅には近現代に能登を訪れた文化人の置き土産が待っています。

昨年度はコロナ禍で中止とはいえ皆様にご迷惑をかけました。今回は藤平さんにも再度お願いしての講演となります。

好評受付中！

- 本を読む仲間の集い・講演の参加申し込みは図書館へ直接か電話でお願いします（0767-53-0583）
- 受付は定員８０名になりしだい締め切ります。

友の会顧問の坂下さん七尾をあとに

思い出す「水戸天狗党の最後」

島崎善信

坂下良雄氏は、いま頃は埼玉所沢の町を元気に闊歩しておられるだろうと思います。七尾は寂しくなりました。

坂下さんというと私はすぐ「水戸天狗党」のことを思います。もう二十年も前になりますが、友の会の秋の史跡探訪で「敦賀方面―武田耕雲斎と今庄町を訪ねて」がありました。坂下さんは大はりきりで道中のバスの中でマイクを持って水戸天狗党の最後について蘊蓄を語りました。珍しいことでした。お調子者の私も何やらお喋りしたと思います。坂下さんがもし幕末に生きたら勤王の志士だったかも知れません。

このごろは、「猫」に魂を抜かれているやに漏れ聞きますが、わたくしは犬猫は大嫌いです。で、坂下氏とは微妙に意見が合わなかったのでした。

２０２２・９・１

まさに滞在型の図書館

「百万石ビブリオバウム」行ってきました

昭和四十一年に建った二代目石川県立図書館から五十五年を経て待望の新しい県立図書館が七月十六日にオープンしました。その名も「百万石ビブリオバウム」バウムクーヘンのような図書館。

早速行ってきました。ホテルのように落ち着いた雰囲気のエントランス。五百席ある

という閲覧席は様々な形をしていて、本を読む人の心をお見通しのような場所に置かれていました。それでいて話し声が気にならない、まさに滞在型の図書館でした。

広く庭を見渡せるカフェでのひと休みも良かったです。

三時間が、あっという間に過ぎ、それを超えると一時間

百円の超過料金でしたが、金額が手頃で、七尾市立図書館もこうであれば良いなあと思いながら帰ってきました。

金沢のもう一度行きたい場所ベストスリーの一つとなりました。

（Q）

本の虫

「秋の子」という童謡がある。「すすきのなかの子 いちにの三人 はぜ釣りしてる子 どこかで焼き栗やいている つばきをのむ子は なんにんだろな」サトーハチローの詩に末広恭雄の曲である▼のちに、お魚博士と呼ばれる末広恭雄さんは昭和十五年、和倉近くの水産試験分場に着任した。初めての土地で知人もなかったが、クリスチャンの末広さんが一本杉にある七尾教会へ通い始めると、いつしか楽器好きの仲間ができた。教会修理のため、「旨い魚を食わす」と東京から友人の歌手を呼び慈善音楽会を開くと、市民に大評判となった▼負け戦が目に見えてきてクリスマスだった。ガシャン！ 教会の窓に石を投げられた。「それでも日本人か」捨てぜりふを残して男が走り去った▼町の顔役だった男が泣かんばかりに投石を詫びてきたのは、七尾へ進駐した軍人が教会で祈ってからだった。

末広恭雄著「さかなの歌」より。T

楽しむことをモットーに

のまひょうしぎの会ｉｎ七尾

代表　福田美江子

のまひょうしぎの会ｉｎ七尾は、２０１１年４月から「のまりん」こと野間茂之先生の指導を受けて活動しています。このコロナ禍の中で活動は制限されていますが、老健施設や図書館等で季節きせつの題材を持ちより演じています。私たちは、観る人はもちろん演ずる私たちも楽しむことをモットーにしています。

野間先生はよく話されます。「絵本は世界中どこにでもあり、世界中で出版されているが紙芝居は日本に生まれ、日本にしかない文化であるから後世に伝え残していくべきなのだ。それなのに出版数は年々減ってきている。悲しいことだ」と。

のまひょうしぎの会ｉｎ七尾では、会員を募集しています。私たちと一緒に楽しみながら日本古来の文化を伝承していきませんか。

中野邸美術館（新潟市）撮影/寺野時雄

「ちいかわバッグ」

室屋　佳子

フジテレビの「ちいかわ占い」が楽しみだ。小さくてかわいいキャラクター「ちいかわ」たちがリズムに合わせて踊ると、ほのぼのと温かい気持ちになる。肝心の自分の星座を見逃してしまうほどだ。

ちいかわグッズが販売された九月三日、ベイモールのファッションセンターＳへ出かけた。ベージュのカッコいいショルダーバッグ（１７９０円）が目に入ったが、さすがにアニメのバッグを持ち歩く勇気はない。部屋着やキッチンマット等をカゴに入れてレジに並んだ。清算直前、「すみません、もう一つ持ってきます」と言ってバッグコーナーに戻った。あっ、なくなってると焦ったが、タイミング良く他の色が補充された。きれいな水色だ。

家に帰りバッグを取り出す。水縹（みはなだ）色に似ている。石牟礼道子作・新作能「沖宮」で染色家志村ふくみさんが手がけた装束の色に似ているのだ。本当に買ってきてよかった。

十月に友の会講演会がある。勇気を出して持っていこう。

「沖宮」より

親子の図書館コント

背表紙ラベルとは

子　図書館の本の背表紙に貼ってあるラベルはなんなの？

親　請求記号と言って、本の内容を細かく分類して、似たものを隣り合わせに並べるためなんだ。

ここにある井上ひさし著「社会とことば」を見てみよう。

子　２段にわけて数字やカタカナが書いてあるよ！

親　上段が「９１４・６」下段が「イノ」となっているね。

子「イノ」って井上？

親　そう、著者名の略語だ。以前は一文字だったが、最近はもう一字たして分かりやすくなった。

子　上の段の数字はどんな意味？

親　これはね、日本十進分類法という規則によって書いてあるんだ。

最上桁の**9**は文学、次の**1**は日本、**4**は評論・エッセイ・随筆、そして小数点以下の**6**は年代が明治以降の意味だ。

子　なんだか頭が痛くなってきた。

親　この請求記号や書名をもとに図書館職員やボランティアが本を正しい位置にそろえているんだ。

子　ご苦労さんです。

親　ほかにも、貸出コーナーにある端末から「井上ひさし」と検索、次に「社会とことば」と絞り込んで検索すると、「請求記号」はもちろん、「七尾市立図書館」の「青２６」の棚にあって「貸出中」までも分かる。これは自宅パソコンやスマホからでも図書館ホームページへ入れば見られるぞ。

子　便利だね。パソコン買ってよ。

親　オイオイ。